

深夜発災を仮想した WEB 会議による災害対策本部・災害調査対応本部訓練を行いました (2021/12/1)

テーマ：災害対策本部、災害調査対応本部、事業継続計画（BCP）、WEB 会議方式
場 所：災害科学国際研究所（仙台市青葉区）

12月1日（水）午後13時より、当研究所において、深夜に地震が発生したことを想定したWEB会議方式の災害対策本部及び災害調査対応本部の訓練を実施しました。今年2月13日の深夜11時過ぎに発生した福島県沖地震の経験を踏まえたものです。また、WEB会議方式は、新型コロナウイルス感染症の対応でもあります。両本部の訓練は今回で6回目であり、WEB会議方式は昨年に続き2回目ですが、深夜の発災を仮想し所員の在宅を想定した訓練は初めての取り組みでした。訓練事務局は、当研究所の消防・防災委員長の丸谷浩明教授（防災社会推進分野）の研究室及び事務部の総務係、用度係が務めました。

被害想定は、2日前から降雨、前日は豪雨の中で、午前0時30分に福島県沖で地震（M7.5、最大震度6強、仙台市青葉区では最大震度6弱）が発生したとし、がけ崩れなど相当な被害が出ているものの、電力とインターネットは活用可能で、自宅からのWEB会議に参加できるとしました。さらに、当研究所建物が周囲から100m程高い青葉山の上にあり、沿道のがけ崩れの危険もある急坂のアクセス道路を通る必要があることから、豪雨の中で地震が発生した後の参集は危険なため、原則として朝まで参集は行わない指示を出しました。

想定地震発生から30分後の訓練時間午前1時（実時間は午後1時。12時間の前倒方式）から、WEB会議システム（Google Meet）を使い災害対策本部の幹事会を開催し、並行して、所内の各研究室や事務室の所属教職員・学生に対する安否確認をメール等で実施する指示を出し、20分後には途中経過を幹事会に回答するよう求めました。

その後、訓練時間午前1時20分（実時間午後1時20分）から災害対策本部の本会合をWEB会議システム（Zoom）により開催し、所員全員が参加・傍聴が可能としました。会議を別システムで2つ行う方法は、両会議への参加者はパソコン2台を使うか、都度の切り替えが必要となりますが、当研究所の教職員は日頃の業務でこのような方法に習熟していると判断して行いました。

この訓練への参加者は、安否確認訓練には所内メンバー211人について回答があり、災害対策本部の対策本部WEB会議には教職員55名が参加しました。会議内容は次の通りでした。

- 状況付与に基づく各班長からの被害報告や安否の状況の報告
- 大学本部から求められた重大被害至急報告の記載内容決定（4名の負傷者の報告）
- 災害研BCPのポイントの簡潔な説明と確認
- 翌朝からの所員・学生の活動についての議論（本部メンバー内の議論の訓練）

続いて、当研究所が災害発生により緊急に調査等を行う必要性が生じた場合に設置する「災害調査対応本部」の訓練を、引き続きZoomによるWEB会議方式で開催しました。同本部は、地震・地殻変動、津波調査、地震被害調査、地すべり・地盤災害、医療対応、情報分析、民間部門調査などの専門分野ごとの班によって構成されており、それぞれが発表や提案を行いました。

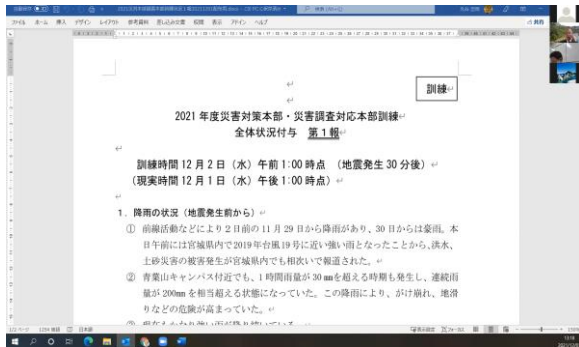
主な会議内容は次の通りでした。

- 各班から、地震、水害のデータ及び初期的分析の報告や、把握した各種被害の状況報告
- 近隣市内や被害が大きい地域の現地調査の計画の出発の時期、役割分担等
- 執行部・事務部からの現地調査の安全確保等の留意事項の提示
- 今後の調査の対応方針の議論と所長からの次回会合の時間の指示

主な発表者は、福島洋准教授（陸域地震学・火山学研究分野）、榎田竜太准教授（地震工学研究分野）、橋本雅和助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）、主な資料提供者は、佐藤健教授（防災教育実践学分野）、森口周二准教授（計算安全工学研究分野）でした。

今回の訓練では大きな混乱はみられず、夜間でも電力とインターネットが確保できれば両本部を WEB 会議方式で開催することは可能とみられました。ただし、安否確認ではケガの程度の把握により有効な方法が必要などの諸課題が見つかり、また、地震発生で電力やインターネットが使用できなくなる場合など、さらに厳しい想定での訓練も必要との指摘もありました。今後も、参加者の意見も踏まえ、多様な訓練を進めていくこととしています。

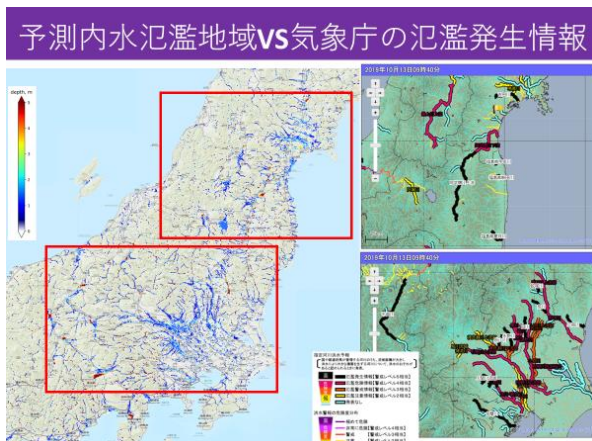
文責：丸谷浩明（防災社会推進分野）



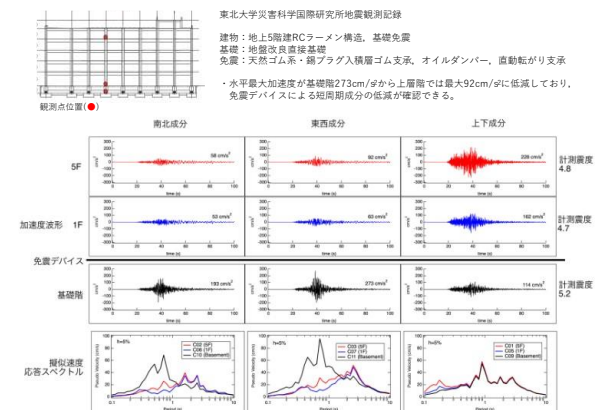
災害対策本部での状況付与説明



説明資料（地震動分布予想）



説明資料（過去の水害例の分析）



説明資料（当研究所建物の以前の地震記録）



引用：仙台防災ハザードマップ <https://www.city.sendai.jp/anzensuisu/hin/krush/anzen/saigaitaisaku/hazardmap.html>

災害研の周りの道路にも土砂災害の危険箇所や警戒区域が存在する。累積雨量40mmをこえているため、調査時には注意が必要。

説明資料（周辺地域のハザードマップ）